

事務連絡
令和4年4月20日

各位

農林水産省農村振興局農村計画課長

「農村プロデューサー養成講座」の御案内

平素より農政の推進に格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

農山漁村における高齢化・人口減少が都市に先駆けて進行する中、地域に寄り添ってサポートする人材の必要性が増大しており、令和2年3月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画においても、地域振興を担う人材育成の必要性が位置づけられております。

このため、農林水産省では、令和3年度から、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材（農村プロデューサー）の育成を目的とする「農村プロデューサー養成講座」に取り組んでいます。

本講座は座学のみならず演習や実践活動により、研修生の現場力アップを重視した構成としています。

各地方公共団体の職員をはじめ、地域づくりに携わる多くの方々に広く御参加いただきたいと考えておりますので、奮って御参加いただきますよう御案内いたします。

記

「農村プロデューサー養成講座」は、オンラインと対面講義を併用しながら、入門コースと実践コースの2種類のコースで構成されます。

1) 入門コース

簡単な事前登録のみで、地域づくりに関心のある方の幅広い参加が可能です。地域づくりに造詣の深い6名の講師により、5月18日から7月6日にかけて、全6回の講義をオンラインで実施いたします。

2) 実践コース

地方自治体職員及び地域づくりに意欲がある方を対象として参加人数は100人程度を予定しています。オンラインと対面講義を併用し、オンラインは1時間半の講義を7月に4回開催。その後、対面講義は全国8会場（各会場15名程度）で実例を基にした模擬演習等を実施。その後、対面講義で学んだ内容を基に、講師と相談の上、研修生が地元で実践活動を行います。

○詳細は本養成講座の専用HPをご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/course/index.html>

担当：農林水産省農村振興局農村計画課 農村政策推進室 野田、高橋 TEL：03-6744-2203

『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要

参考 1

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、研修修了生（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（主にライブ配信による講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や研修生自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

- ・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得。

2. 主な内容

オンライン講演（ライブ配信）

- ・ 活動内容や成果、動機等を通じ、地域づくりのワクワク感を体感。

『農村プロデューサー』入門コース（定員なし）

- ・ 地域づくりに造詣の深い者等を講演者（講演者は毎回交代）とした、オンライン上の講演。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月3回、90分程度（全6回）。

3. 受講対象者

- ・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能。
- ・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい。

1. 研修の目標

- ・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成。

2. 主な内容

(1) オンライン講義（ライブ配信）

- ・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶ。
- ・ 地域づくりに造詣の深い者を講師とした、オンライン上の講義。ライブ講義中にチャットで双方向のやりとりが可能。
- ・ 月4回、90分程度（全4回）。

(2) 対面講義（実例を基にした模擬演習等）

- ・ 実例を基にした模擬演習等により、(1)で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。
- ・ 2泊3日、8地方会場で開催。

(3) 研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）

- ・ (2)で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、地元で実践。
- ・ 農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。

『農村プロデューサー』実践コース（100人程度）

- ・ 成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。
- ・ 月1回、90分程度（全2回）。

3. 受講対象者

- ・ 地方自治体職員※及び地域づくりに意欲がある者等を想定。

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

ネットワークへの参画希望者



『農村プロデューサー』養成講座 講演者・講師の紹介

参考 2

- 令和4年度は、「入門コース」（参加自由）を5月から、「実践コース」（定員制）を7月から開講。
- 「実践コース」は、ホームページ上にある実践コース受講申込書でダイレクトに応募可能。（募集期間5月中旬から6月中旬を予定）

入門コース 講演者（オンライン講演）

6つの分野別に、講演者それぞれから地域づくりに関する取組内容を学ぶ。

第1回 【総論分野】

令和4年5月18日（水）19:00～



東京大学助教授等を経て、2006年より現職。専門は、農村政策論、地域ガバナンス論。国内外の農山村地域を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。
著書：『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『農村政策の変貌』（農文協）など多数。

明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏

第2回 【イノベーション分野】

令和4年5月27日（金）19:00～



ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター。静岡県湖西市出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアしている。
著書：『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）

一般社団法人INSPIRE 代表理事/
BBT大学・BBT大学大学院MBA 教授 谷中 修吾 氏

第3回 【関係人口分野】

令和4年6月6日（月）19:00～



イギリス生まれ。1981年来日。NHK番組「英語でしゃべらナイト」「英語であそぼ」などで言語コンサルタントを務める。農林水産省主催の「美の里づくりコンクール」審査員として日本の農村の魅力とともに、地域が抱える課題に理解を深める。山形県飯豊町中津川地区や福島県郡山市逢瀬町地区のコンサルタントを務め、関係人口戦略づくりなどで地方創生をサポートする取組を行う。

有限会社フルフードエンタープライズCEO
アダム・フルフォード 氏

第4回 【生産・流通技術開発分野】

令和4年6月16日（木）19:00～



東京大学農学部を卒業後、英国クランフィールド大学で修士号を取得。NASAの植物工場プロジェクトへの参画等を経て、2009年、株式会社エムスクエア・ラボを創業。2017年に立ち上げたやさいバス事業ではACC2019クリエイティブイノベーション部門にて総務大臣賞グランプリ受賞。デジタル田園都市国家構想実現会議委員。

株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役社長/
やさいバス株式会社代表取締役 加藤 百合子 氏

第5回 【地域診断&未来計画分野】

令和4年6月27日（月）19:00～



1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士（マネジメント）。島根県中山間地域研究センター等を経て2017年より現職。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、地域診断（人口・経済）、地域づくり支援、中山間地域政策、未来社会論、地域計画。
著書：『田園回帰1%戦略』（農文協）、『日本はどこで間違えたのか』（河出書房新社）など多数。

一般社団法人持続的な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

第6回 【都市農村交流分野】

令和4年7月6日（水）19:00～



地域の短期的・季節的な人手不足で困る収穫時の農家等と、農業や地域に興味がある地域外の若者をマッチングするwebプラットフォーム「おてつたび（お手伝い×旅）」を運営。お手伝いを通じて自分にとって好きで堪らない特別な地域が出来る、そんな“新しい旅”の形を提案している。

株式会社おてつたび代表取締役 永岡 里菜 氏

実践コース 講師（オンライン講義+対面講義）

講師は3名体制。実例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、現場力をアップする。



2021年3月に山形県庁を定年退職。在職中は、一貫して農村の生産基盤と生活環境の整備に取り組む。

事業の計画や実施に合わせ、地域の真の課題の見極めと、解決に向けた合意形成手法や話し合いと解決の道を探ってきた。県内外1,000以上の事例と向き合い、地域に誇りを取り戻すための「地域づくり」を展開している。

農村着火型プランナー 高橋 信博 氏



2018年に愛媛県庁退職。在職中は、協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域担当職員として地域に深くかかわる。

2014年4月から3年間、地域活性化センター派遣となり、全国の地域人材育成と地域づくり伴走支援に従事。現在は、フリーランスで課題解決思考から価値創造思考への転換やあいだをつなぐ人材育成を行っている。

一般財団法人 地域活性化センターフェロー
人材育成プロデューサー 前神 有里 氏



岩手大学農学部修了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社し、公共交通に関する調査や計画策定に携わる。2005年博士（農学）取得。

岩手県花巻市を拠点に、地域運営組織の立ち上げ支援や地域交通（デマンドタクシーやボランティア送迎等）の導入支援に取り組んでいる。

特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター
常務理事 若菜 千穂 氏

【入門コース】

研修科目	講演者	講演者からのメッセージ
入門コース 第1回 【総論分野】	明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏	「地域づくり」とは何でしょうか。「つくる」とは、所得や雇用はもちろん、地域のコミュニティやそれを支える人材が生み出される環境づくりに対する言葉でもあります。そうすると、地域づくりとは、「しごと」「くらし」「活力」のそれぞれのパーツと同時に、新しい地域の「しくみをつくる（造る）」ことを意味しています。当然、その課題は重たく、また息の長い取り組みが必要になります。しかし、そこでたじろぐ必要はありません。なぜならば、既に全国各地でそうした取り組みがあり、その内容とプロセスを「解剖」することにより、だれでも手がかりやコツを学び、実践に向けて身につけることができるからです。 本講義では、先発するそうした地域づくりの取り組みを紹介しつつ、地域づくりの本質と勘所をわかりやすく論じてみたいと思います。
入門コース 第2回 【イノベーション分野】	一般社団法人INSPIRE 代表理事/ BBT大学・BBT大学大学院MBA 教授 谷中 修吾 氏	農村発イノベーションには、地域の社会的課題を明らかにしてロジカルに解決策を導き出す「問題解決型」だけではなく、突き抜けたアイデアから出発して農村の社会的課題を紐づける「価値創造型」のアプローチを組み合わせることが重要です。0から1を生み出すイノベーターは、農村でどのように新しい事業を生み出しているのでしょうか。 国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE（インスパイア）」において、価値創造型で地域活性化に取り組むイノベーターたちの集合知を体系化した「超絶まちづくりのビジネスデザイン技法」を伝授します。
入門コース 第3回 【関係人口分野】	有限会社 フルフォードエンタープライズ CEO アダム・フルフォード 氏	イギリス南西部の町で農産品を販売する会社を営む家に生まれました。1981年来日して、かつて農林水産省に勤めていた人の娘と1987年に結婚。娘3人が日本人である私は、国籍は英国でありながら心の半分は日本に属しています。日本文化の影響を受け、私は年を取るにつれて先祖の存在を身近に感じるようになっていきます。大地やコミュニティを大事にしていた先祖をがっかりさせてはいけません。この100年の間にイギリスが失ってしまった伝統的な価値観が日本に残っているだけでなく、それは日本の国民性にも影響を与えていると思います。「良き先祖」になるために何ができるか。自我を優先する「遠慮のない」欧米文化と相手の立場を尊重し「相手を想う」日本文化のパワーを合わせて、地方再生に駆使できないだろうか。皆様と一緒に模索していきたいと思っています。
入門コース 第4回 【生産・流通技術開発分野】	株式会社エムスクエア・ラボ 代表取締役社長/ やさいバス株式会社 代表取締役 加藤 百合子 氏	当社は農業×ANY=HAPPYの方程式のもと、農業×サービスデザインでやさいバスによる流通改革事業や、農業×ロボット・ITで生産性向上の取り組みを進めています。農業は社会基盤産業ですが、戦後、産地と消費地が距離も気持も離れたことにより、命に欠かせない食への関心が薄れ、何かと課題を大きくしているのではないかと考えています。農業×福祉、農業×福利厚生、農業×教育など各地で行われているように、農業をより社会につなぎ込むことで地域課題は解決します。
入門コース 第5回 【地域診断&未来計画分野】	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏	私たち人間と同じく、地域や自治体においても、しっかりした診断無しでの活動や政策の展開は、大きな間違いを引き起こします。私の講座では、人口、産業、経済、福祉、社会構造から多角的にデータ分析&構造分析を行う実践的な手法を紹介し、地域住民が自分たちの地域の強みと弱みを理解した上で、持続可能な地域社会へと進化するステップを学んでいきます。 また、これから2050年までの30年間は、待たないで循環型社会へと地域も地球も転換していく時代です。今までの延長線上にソリューションはありません。地元から世界を創り直す戦略についてもご提示し、みなさんとどんどん議論していきたいと思っています。
入門コース 第6回 【都市農村交流分野】	株式会社おてつたび 代表取締役 永岡 里菜 氏	人手不足やPR不足などで困っている地域の方と、知らない地域へ行きたい若者をマッチングするWebマッチングプラットフォーム『おてつたび』。お手伝いを通して地域の方と深い関係ができ、気づいたら自分にとっての特別な地域（＝地域の関係人口）ができていて、そんな“新しい旅”の形を提案しています。 今回は参加者・受け入れ事業者様の声も紹介しながら『おてつたび』についてお話いたします。皆様にお会いできるのを楽しみにしております！

【実践コース】

研修科目	講師	講師からのメッセージ
実践コース (1)～(3)	農村着火型プランナー 高橋 信博 氏	私は、若い時に「地域づくり」の現場に出会いました。そして30年以上にわたり、この仕事に山形県職員と言う立場で携わることができました。この間、全国1,000余りの地域と関わる中で、「今までいろいろ手を尽くしたが、地域がなかなか動かない」という共通した悩みを聞いてきました。動き出す地域とそうでない地域を比べてみると、地域づくりの事前準備にどれだけ丁寧に取り組んでいるかがポイントでした。この下格えにあたる部分は、他所の人に頼ってもどうしようもない部分で、実際の現場では地域に一番身近な関係者が行うべきものです。 本講座では、現場で試行錯誤しながら、地域づくりに取り組んでいる皆さんに向けて、地域に消えない火を灯し、地域自らがその気になり、実際に動き出すまでの、地域実践型のノウハウを提供します。
実践コース (1)～(3)	一般財団法人 地域活性化センター 人材育成プロデューサー 前神 有里 氏	地域をよくするためにできることを考えると難しいですが、私の好きなことやしていることが地域に役立っているならば、地域づくりはぐっと身近になりますね。目の前の困りごとは解決すべき課題なのか、周りの変化とともに新たな価値を創っていく素材の一つなのか、とらえ方ひとつで未来は変わります。 私たちの暮らしは遠くの誰かとつながっていて、共に在り、共に未来を創っていますが、考え方や価値観は人によって違います。わかりあえなさをスタートに、思い込みを解きほぐし、私のあなたの私たちの地域の幸せを考えてみませんか。
実践コース (1)～(3)	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏	東北の農山村地域を対象に住民主体の地域づくりのサポートに取り組んできました。この数年は、新しい活動に取り組む以上に、既存の自治会や町内会のあり方を見つめなおす必要性も高まってきているように思います。地域運営組織形成の支援も行っていますが、住民自治のあり方は地域それぞれで、それによって地域運営のあり方も異なります。 今の住民自治のあり様、自分たちの人柄や特性、これからのあり方を考え、そして一步一步進んでいくには、何よりもいるんな人同士の対話がとても大切です。今回の研修で、多くの人と多くの対話を重ね、私も共に学ぶことを楽しみにしています。

※令和4年度は、高橋信博氏は全会場、前神有里氏はさいたま、名古屋、京都、札幌、金沢会場、若菜千穂氏は岡山、仙台、熊本会場を担当予定。

【市町村職員】

- 適切な仕掛けを行うことで、ひとの心に「火」をつけることができるという実感を持つことができた。
- 今回できた人脈(つながり)を大切に、壁にぶち当たった時に相談したい。
- 講師の説明が大変分かりやすく、また勇気付けられるメッセージを沢山いただいた。地域づくりをサポートするメンバーとして、役場や農協など、仲間集めに取り組みたいと思った。
- 講座受講をきっかけに、市で研究グループを立ち上げ、活動を開始した。今後、地域を飛び出し、行政だけではできないことに取り組んでいきたい。

【県庁職員(普及指導員含む)】

- 全国のみなさんが、それぞれのフィールドで活躍されており、その中の課題や成功体験など共通の「あるある」を話せたのはとても良かった。地域づくりの悩みは「人」であり、喜びもまた「人」に尽きると思った。
- 現場で住民とワークショップをする前に、農村プロデューサーとしてこれほどの準備をしておかなければならないということに驚いた。本気で向き合い、時間も手間もかけねばならないのだ!と認識を改めた。

【地域おこし協力隊】

- 地域おこし協力隊を始めたばかりで、何をしたら良いのか分からない状態で、何かヒントになればという思いで講座に参加した。農村プロデューサーの立場としての地域づくりの取組方法を学び、今後の活動のヒントになった。
- 地域診断の方法を学び実践することで、これまで地域のことを知っているようで知らなかったのだと分かった。これから活かしていきたい。
- 講座受講前は、地域の活動のプレイヤーになりきっていた。受講することで、地域を俯瞰して見る視点を学び、少し違う視点で地域づくりに関われるようになった。
- オンラインゼミを通して自分以外の活動を知り、自身の活動に共通する点や解決方法を学ぶことができ、大きな学びになった。

【その他(団体職員、役場OBなど)】

- 地域づくりの一連のプロセスが見える講座を受講できたことは大変勉強になった。研修で学んだ農村プロデューサーの役割を意識しながら、活動していきたい。
- 講座を受講することで、ネットワークが全国にできたことが財産になっている。悩みを共有できる繋がりができたので、今後も大切にしたい。